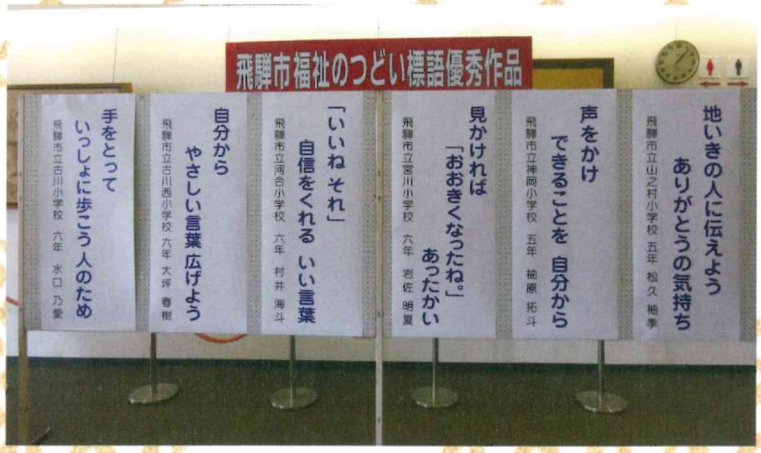
飛騨市社会福祉協議会

福祉協力校だより

令和元年12月17日発行



Contents

福祉協力校とは	P２
福祉出前講座メニュー一覧	P３
福祉意見発表	P４～７
福祉標語優秀作品	P８

■11月10日(日)に行われた「飛騨市福祉のつどい」の様子

福祉協力校とは？

飛騨市社会福祉協議会では、次世代の担い手である小学校・中学校・高等学校の児童・生徒が、ボランティア活動や身近な福祉活動の中で、社会奉仕や社会連帯の精神を養い、家庭や地域の福祉の心を深めるような教育の実践を行うことを目的として、福祉協力校の指定をしています。福祉協力校へ助成金を交付し、活動の支援を行うと共に下記のような活動を当協議会と連携を取りながら実施しています。

具体的な活動は？

1 広報・啓発活動

- ❖ 講演会や展示会等の開催
- ❖ 各学校の福祉活動の紹介
- ❖ 体験作文、学校新聞等の作成や配布
- ❖ 福祉意見発表
- ❖ 標語の募集

2 調査・研究活動

- ❖ 地域における福祉実態調査

3 体験学習を目的とした実践活動

- ❖ 社会福祉体験活動
  （手話、点字、車いす体験など）

4 地域一般での訪問・交流体験活動

- ❖ 高齢者施設等への訪問、交流活動
- ❖ 暑中見舞い、年賀状等の送付
- ❖ 給食サービスボランティア活動
- ❖ 各種募金活動
- ❖ ベルマーク・エコキャップ収集活動

【福祉協力校一覧】

飛騨市立山之村小中学校・飛騨市立古川小学校・飛騨市立古川西小学校
飛騨市立河合小学校・飛騨市立宮川小学校・飛騨市立神岡小学校
飛騨市立古川中学校・飛騨市立神岡中学校
岐阜県立吉城高等学校・岐阜県立飛騨神岡高等学校

飛騨市社会福祉協議会　出前講座等メニュー一覧

飛騨市社会福祉協議会では、車いす体験や高齢者疑似体験、障がい者に関する疑似体験、福祉学習に必要なものを貸し出したり、職員が出向いてアドバイスしています。学校の授業やクラブ活動、先生や企業、地域での学習会等、お気軽にご相談ください。

テーマ	内　　容	対象範囲	所要時間
社会福祉協議会	社会福祉協議会が、「どんな団体」で「どんな事業をしているのか」等をお話しします。	一般	30分
災害図上訓練（DIG）	地震や風水害が起きた時、自宅や周辺地域でどのような被害が発生するかを平面図や地図上で想定し、必要な対応策を具体的に考えていきます。	小学校高学年以上・一般	60分
ボランティア活動	ボランティアとはどんなことをいうのか、又どんな活動があるのかをお話しします。	小学校高学年以上・一般	30分
高齢者疑似体験	高齢者疑似体験セットの器具を体につけて、年齢を重ねると体の状態がどのように変わるのか、どんな気持ちになるのかを体験していただきます。	小学校高学年以上	60分
車いす体験	実際に車いすに乗ったり、人が乗っている車いすを押すことにより、どんな時にどんなことが大変なのか、どんな気持ちになるのかを体験していただきます。	小学校高学年以上	60分
視覚及び聴覚障がい体験	体験用のゴーグルやメガネ、耳あてなどを使って、どのような状態になるのか、どんな気持ちになるのかを体験していただきます。	小学校高学年以上	30分
発達障がい擬似体験	発達障がいがある人が、どんなふうに見えたり、感じたりしているか、手作りの道具を使ってお話します。	小学校高学年以上	60分
チェアスキー支援	身体に障がいがあり一人ではスキーができない方に、特殊なスキーを使用し介助をすることにより、スキーを楽しんでいただけます。	小・中学生	60分
給食サービスボランティア	夏休みに、給食サービスの調理と配達ボランティアの体験をしていただきます。	小学校高学年以上	3時間
募金ボランティア	社会福祉協議会が実施するイベント等において、来場者に募金の呼びかけ等を行います。	小学生以上	60分
障がいのある方のお話	目が見えない方等に、障がいがあるようになった理由や普段の生活等についてお話をしていただきます。 ※外部の方に依頼します。	小学校高学年以上	60分
認知症への理解	認知症という病気を理解してもらえるような講演や講義を行います。また、夏休みや冬休みを利用して子供向けの認知症サポーター講習も可能です。 ※須田病院　認知症疾患医療センター ※飛騨市地域包括支援センター	小・中学生	調　整
岐阜県飛騨子ども相談センター	防犯、いじめ、ネット犯罪、などについて過去の事例等も交えながら話をしていただきます。	小・中学生	調　整
	家庭内での子どもとの関わり方等について事例を交えて話をしていただきます。	保護者・教員	調　整

※標準所要時間は、おおよその目安です。参加人数等により調整させていただきます。
この他に、社会福祉協議会で行っている各種事業の詳細につきましても、説明させていただくことができます。
※なるべく早めにご連絡いただき、担当者と打ち合わせをしながら、内容等を確認させていただきます。

令和元年度　飛騨市福祉のつどい

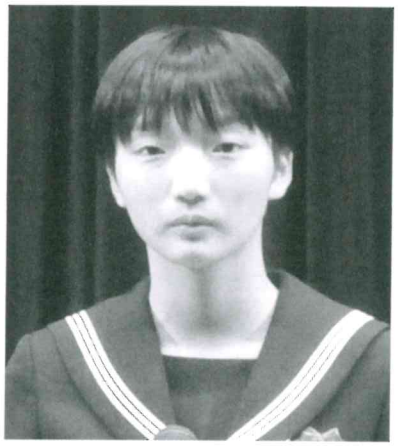
11月10日㈰神岡町公民館で「飛騨市福祉のつどい」を開催しました。市内中学生の福祉意見発表・市内小学生の福祉標語の掲示を通して、地域福祉の重要性について、関心を深めることを目的に実施しております。

中学生の意見発表では、飛騨市の将来を担う若者の学校や家庭、将来についての意見や考えに来場者の皆さんは真剣に耳を傾けていました。

福祉意見発表の後に、映画「あまのがわ」の上映を行いました。私たちは自分にとって都合が悪いことを、周りの人や環境のせいにしてしまいがちですが、大切なことはその事象にどう向き合うかで、自分を取り巻く環境や未来はいくらでも変えていくことができることを気づかせてくれる映画でした。

同じ人として

古川中学校三年　安江　葉留



「特別扱いしないでください」

私は、この言葉に違和感を覚えました。特別扱いされるということは自分には利益しかないし、すごくいいことだと思っていたからです。

皆さんは動画投稿アプリを使ったことはありますか。私がよく利用するアプリは今人気のある、音に合わせてダンスしている様子などを投稿するアプリです。このアプリではいろいろな人が動画を投稿しています。多くの人が利用しているので、もちろん障がいのある人もいます。コメントには「これからも頑張ってください！」「大変なことはあるけどみんなで支えて頑張りましょう！」と応援メッセージがたくさん寄せられていました。

私は、「みんないい人やなぁ」と思いながらスマホの画面をスクロールしました。すると、そこにはその障がいのある人自身のコメントが載っていました。

「特別扱いしないでください」

私は頭に疑問が浮かびました。「どういうこと？」と何度も考えました。最初にも言いましたが、特別扱いされれば、みんなが優しくしてくれるし、自分にとっていいことばかりだと思います。応援メッセージだってもらえる、大切にしてもらえるのは嬉しいことだ、と思いながらコメント欄を見続けました。すると、「なんで障がいのある人にはこんなメッセージを送るのに、他の人には悪口を言うの」というコメントを見つけました。

「確かに」と納得しました。もし、同じようなものを障がいのない人が投稿したら、みんなどんな反応をしたでしょうか。私は今まで障がいのある人を大切に行動してきました。優しく声をかけたり、無理そうなこと、危険なことは全て自分がやったり、少しでもその人の役に立ちたいという思いで、過ごしていました。ただそれは、その人にとってあまり良くなかったのかなぁ、と考え始めました。私の関わり方は良かったのでしょうか。

すると、そう考えていた時に、一つのCMがテレビで流れました。足のない少年が海で泳いだり、手の力だけで山を登ったりしていました。「すごいなぁ」「よくここまでやれるなぁ」と感じながら見ていると、また見覚えのある言葉が出てきました。「特別扱いしないで」という言葉です。

私はますます悩み始めました。「どうして？」「人に助けてもらえることはいいことなのに」。

そこで、はっとしました。障がいのある人は私たちと変わらない過ごし方をしたいのではないか。「障がい者だから」「障がいがあるから」などと勝手にできないと決めつけて手を出している。そんなもの、優しさでも何でもないと私は感じました。最初に話したアプリの時も同じだと思います。障がいのない人の投稿に対しては悪口を書いたり、きつい言葉を返したりしているのに、障がいのある人には優しい言葉を書いていることが気にいらないのかなと思いました。私は、それはおかし

いと思います。人によって言葉遣いや態度を変えること、また、すぐからかうことなどは相手を傷つけてしまう行動なので、絶対やってはいけません。障がいがある、ないは関係なく、相手は心ある人間なのです。

「特別扱い」

これは、障がいのある人にとっては助かることであり、また、助けている人も良いことをしているのだと思っていることが多いです。しかし、それだけではいけないと思うようになりました。人を選んで優しくしたり、厳しくしたり、そういうことが差別というものにも繋がってくるのだと思います。今まで自分が思っていたものと逆なんだなぁ、と感じました。「障がいがある方には優しくしなきゃ」「手伝いをしなくては」とずっと思っていました。

もちろん、これからも優しくすることはそのまま続けていきます。しかし、できそうなこと、やれそうだなと思うことは、そばからそっと見守ってあげたいと思います。そうすることで、障がいのある人のできることを奪わないようにしたいです。これは、障がいのある人に限ったことではありません。全ての人に対して、同じ人間として接していきたいです。

自分らしい生き方

古川中学校三年　熊崎　杏海

私の祖母は食道がんでした。食道がんは、初期には自覚症状がなく、がんが進行するにつれ、胸の違和感、体重減少などの症状が出ます。一年に十万人中、十八人もの人がなると言われる進行性の病気で、私の祖母は他の臓器にも転移していました。

私が祖母ががんと知ったのは、祖母が入院している病院へ行った時でした。それまでも、名古屋の病院へ行っていたのは知っていましたが、その後、家から近い大きな病院に何カ月も入院することになったのです。私は母に「どうして、ばあちゃんは入院しているの」と聞きました。母は「ばあちゃんは、がんになったの。これから行ける時は毎日病院に行くよ」と言いました。その時私は、がんがどんなに苦しい病気なのかを考えてもいませんでした。しかし、病院で過ごす祖母との時間はすごく幸せなものでした。がんがいろいろな所に転移していたので、つらかったかもしれませんが、私に笑顔で話してくれていた祖母の顔は、今でも忘れられません。

私は、毎日のように病院へ行っていたので、祖母がだんだんとやせ細っていく姿はよくわかりました。ご飯も少量しか食べられなくなりましたが、私や家族にはいつも笑顔で、苦しい顔なんて一度も見せませんでした。

そんな中、祖母の病状が急に悪化しました。前の日まで、いつも通り話していた祖母が、私が病院に行った時には、酸素マスクをした状態でベッドに寝ていました。集まった家族、親戚、誰もが祖母の「死」が近づいていると感じたと思います。私も昨日とは全く違う祖母を見て、本当に動揺しました。

祖母はずっと病院の生活を嫌がって、自分の家で暮らすことを願って治療していました。時々、病院の先生に許可をもらって、家に帰って来たこともありました。それくらい祖母は家族思いで、周りのことを一番に考える人でした。だから、自分の体が苦しくても私たちに笑顔で接してくれたのだと思います。それに気づいたのは、祖母が亡くなってからでした。

祖母は、病状が悪化してから一週間生きました。もちろん、ご飯は口に入らないので、アイスを溶かして唇にあてるようにしたり、家に帰って来て生活したりするなど、家族は祖母のために最後までできることを尽くしました。私は、毎日祖母と握手をしました。もう、笑顔はなかったものの、うなずくことはしてくれ、最後まで私たちのことを考えてくれていたのだと感じました。まさに、最後の最後まで苦しい顔を見せず、笑顔で生きる祖母らしい生き方でした。その生き方は私たちを幸せにするものでした。

私は、祖母の生き方から、夢を決めました。それは看護師になることです。理由は、祖母ががんで亡くなったことから、自分でその治療のお手伝いをしたい、そして、病気で苦しんでいる方々を幸せにしたいと思ったからです。

病気で苦しんでいる方々は、本当につらいと思います。しかし、自分が生き

たい生き方を見つけ、生活することが「幸せ」に繋がると、祖母の生き方から学びました。だから、病気の方々でも幸せに暮らせる生き方をお手伝いするため、看護師になりたいと思います。

私は、人はそれぞれ自分の意思をもつことが大切だと思います。そうしないと、自分の幸せをつかむことができないと思うからです。しかし、私の学校では、まだ自分の思っている意見や提案を言えていない姿が見られます。私も実際に言えていません。だから、まずは自分から行動することを大切にし、人に積極的に関わっていきたいです。

例えば、困っている人には声をかけたり、自分が考えることを仲間に伝えたりしたいです。そうすることが、自分の生き方を見つけ、生活していくことに繋がると思います。みなさんも自分の意思をもって行動し、自分の生き方を見つけてみませんか。

身近な福祉

神岡中学校三年　青柿　颯汰

皆さん。皆さんの中に、「福祉」と聞いて、少し難しいこと、自分とはあまり関りのないことだと思っていらっしゃる方はいませんか。

今日は僕の話をきっかけにして、福祉を、少しでも身近なものに感じてもらえれば……と思っています。

今から一年くらい前になります。僕の親戚のおばさんが、腰の手術をすることになりました。しかし、おばさんの家族は、神岡とは遠く離れたところに住んでいるので僕の母がお世話をすることになりました。

母は、手術の前から、検査を受けるおばさんに付き添って、富山にある病院まで出かけました。また、手術の当日は、夜遅くまで立ち会い、九時過ぎまで、家に戻ってきませんでした。

それから、十日ほど経ち、経過もよく、安心していたところ、夜中の三時に病院から緊急の連絡が入りました。

おばさんの心臓が止まったとのことでした。

母は驚き、夜中にも関わらず、病院まで急いで駆け付けました。

おばさんは、足の血栓が心臓に入り、一時的に止まったのです。

おばさんが入院していたのが、大きな病院だったため、夜中にも関わらず、病院中の先生が集まって、集中治療室で処置していただいたおかげで、幸いにも一命をとりとめることができました。

母は、手術から二か月半の間、毎日神岡から富山の病院や高山の病院に付き添いました。

一緒に住んでいる家族ではない親戚のおばさんの介護を一生懸命している母は、とてもすごいなと思いました。

僕は、このおばさんと母との関りを見るまでは、「福祉」と聞くと、介護の資格が必要だったり、病院や介護施設、役所等が関わる事だったりするのだと、少し難しく考えていました。けれども、母が、おばさんの介護をしている様子を見ていて、福祉とは、そんなに難しいことではない。母のように身近な人を助けることも立派な「福祉」なのだと思いました。そして、僕たちは、みんな「福祉」に関わることができるのだと気付きました。

福祉は、ふだんのくらしのしあわせ、だと聞いたことがあります。

ぼくたちが、日常生活でどんなことができるのか考えてみました。

例えば、地域のクリーン作戦。ぼくは、毎年参加していますが、この活動に参加し、みんなでごみを拾うと、地域の環境がきれいになります。また、地域の祭りにも参加しています。地域に住んでいるみんなが祭に参加することによって、地域が盛り上がるのではないでしょうか。

さらに、地域の活動に参加すると、ふだん話す機会の少ない方と関わることができます。これをきっかけに、ぼくは、近所の方と話す機会が増えたと感じています。

地域の活動への参加によって、お互いを、いつもより、ちょっと身近に感じることができるようになると感じます。地域の人が、身近になることは、ふだんのくらしのしあわせにつながると思いませんか。

今、僕たちの神岡中学校では、挨拶を大切にしていますが、学校以外でも、

挨拶をする機会はたくさんあります。
学校の帰り、バス停から歩いていると、「おかえり。」外で仕事をしている方が、声をかけてくださいます。
「おかえり。」「ただいま。」
短い言葉の交換ですが、やはり、温かい気持ちになります。
挨拶を交わすこともふだんのくらしのしあわせにつながると僕は考えます。

福祉は、特別なことではありません。僕たち一人一人が、毎日の生活で周りの人と関わることが、福祉につながるのだと思うのです。
僕は、これからどんな仕事に就くのか、まだわかりませんが、僕の周りで何か困っている人がいたら、迷わず、そっと、手助けができる人になりたいです。

元気の源

山之村中学校二年　松久　怜奈

みなさんの元気の源は何ですか？読書、ゲーム、友達との会話、いろいろあると思います。昨年、私たちは地域の方々と学校とのつながりを深めるため、総合的な学習の一環として、地域の方々が集まり開いている、いきいきサロンへ行きました。そこで私たちは地域の方々と様々なことをしました。
最初に『これはなんでしょうゲーム』という遊びをし、交流を深めました。このゲームは地域の方に目かくしをしてもらい、私たちが手渡す身近にある物に触れて、当ててもらうというものでした。私が一回やってみた時は、普段何気なく見ているものが目かくしをするだけで何かわからなかったけれど、地域の方々は持った瞬間、パッとすぐに答えを出しました。これは日頃周りをしっかりと見ながら生活していないとできない技だと思い、難しいと感じた反面、それをやってのけてしまう地域の方々はすごいなとも感じました。
次に、ジェスチャーゲームを行いました。これは紙に書いてあるお題の中から一つ選んでもらい、そのジェスチャーをしてもらい、他の方々がその答えを当てていくというゲームでした。地域の方々は、自選他選し合い、笑いながら、時には声をかけたり、ジョークを言ったりしながら楽しそうな表情でゲームをしてくださいました。

最後に私たちは、文化祭で行った劇をしました。劇の最中に地域の方々が、おもしろいと笑ってくださったり、「いいぞ！」と声をかけてくださったり、さらに終わると同時に大きな拍手を送ってくださったりし、その場にいた全員が楽しい時間を過ごすことができました。その後からも、「いつ練習したの」などと劇についての感想や質問をしてくださり、私たちはぐっと距離を近づけることができたかなと感じることができました。
このようなことを行い、私たちは地域の方々とのつながりを深くすることができました。
ところで、みなさんの元気の源は何ですか？私の場合、笑ったり楽しんだりと、笑顔でいることが元気の源です。今思い返してみると、いきいきサロンに来ていた方々は、全員最初から最後まで、いつでも笑顔が絶えずに過ごしていました。それを踏まえて考えると、やはり笑顔で楽しく過ごすことが、私の思う元気の、長生きのできる秘訣だと思います。
インターネットで調べてみると、福祉とは特定の人たちを対象とした、何か特別なことと受け取られがちだが、幸福と同じ『しあわせ』を表していて、『国民全員を幸せにする』という意味があると書かれていました。私もこのことを知るまでは高齢者の方や障がい者の方を考えて、特別なことをするものだと思っていました。でもそれは違い、一人一人が幸せに暮らせることこそが福祉なのです。だから、一緒に楽しい時間を過ごし、一緒に笑えることも一つの福祉だと思います。
人生は誰にも一回きりです。その一回のチャンスをどう楽しく笑顔で過ごすかで自分も変わってくると思います。これからも私は、地域の行事に参加して、一緒に笑顔になり、社会福祉に貢献していきます。

福祉標語紹介

家庭や地域について考える機会を通して、地域福祉についての関心を醸成することを目的に市内各小学校から福祉標語の募集を行いました。今後、飛騨市の将来の地域を支える人材になっていただくことを期待しながら紹介させていただきます。

飛騨市立古川小学校６年
水口乃愛

手をとって
いっしょに歩こう
人のため

飛騨市立古川西小学校６年
大坪春樹

自分から
やさしい言葉
広げよう

飛騨市立河合小学校６年
村井海斗

「いいね　それ」
自信をくれる
いい言葉

飛騨市立宮川小学校６年
岩佐明夏

見かければ
「おおきくなったね。」
あったかい

飛騨市立神岡小学校５年
柚原拓斗

声をかけ
できることを
自分から

飛騨市立山之村小学校５年
松久柚季

地いきの人に伝えよう
ありがとうの
気持ち

関連事業についてのお問い合せは
飛騨市社会福祉協議会
TEL0577−73−3214
飛騨市社協 検索
〒509−4221　飛騨市古川町若宮二丁目1番66号
■URL http://www.hidasi-syakyo.net/　E-mail：info@hidasi-syakyo.net
*この機関紙は、赤い羽根共同募金の配分により発行しています。